

インデアン伝承シャンプー BIEX スタ リングシャンプー

単なる「インデアン伝承シャンプーと BIEX スタ
リングシャンプーの違い」ではなく、なぜ両者が似て見え
ても、設計思想そのものが違うのか。

そして、そこから BIEX の「作用点設計」という汎用原
理がどう導かれるのか、という構造になります。

｜ 総まとめ

1. 出発点は「同じように髪をきれいにする」ように見
える

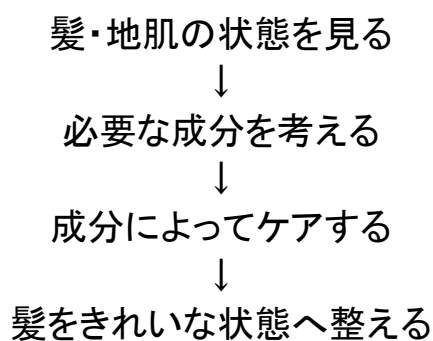
インデアン伝承シャンプーと BIEX スタリングシャン
プーは、外から見るとどちらも「年齢を重ねた髪をき
れいにする」という結果を目指しているように見えま
す。

しかし、何を対象にし、どこを作用点として、どのよう
な設計によって結果を生み出すのかが違う。

ここが決定的な違いです。

2. インデアン伝承シャンプーは「成分・ケア」を起点にする

九州アスリート化粧品 インデアン伝承シャンプー
へ至る発想は、



という流れです。

つまり、基本となる問いは、

「何を与えれば、髪をより良くできるか？」

です。

そのため、生薬・ハーブ・油分など、良い成分をどう組み合わせるかという方向に発想が進みます。

これは一つの明確な商品設計思想ですが、ここから自然に導かれるのは、

- より良い成分、
- より良い配合、
- より良いケアです。

3. BIEX は「成分」ではなく「作用点」から始まる

BIEX の発想は、そこから一段違います。

- 髪がパサつく。
- まとまらない。
- 立ち上がらない。

そこで、

- 「髪をどう変えるか？」
と考えるのではなく、
- 「なぜその現象が起きるのか。その結果を生み出している作用点はどこなのか？」

と問い直す。

そこで着目するのが、

- 髪そのものだけではなく、
- 根元——頭皮と髪の間にある界面環境

です。

つまり、BIEX の最初の問いは、

「何を髪に与えるか？」ではなく、「どこを整えれば、髪全体が変わるのか？」

になります。

ここで、商品設計の起点そのものが変わります。

4. 「成分足し算」から「条件設計」へ

最も簡潔に対比すると、

インデアン伝承シャンプー	BIEX スタイリングシャンプー
成分を起点に考える	作用点を起点に考える
何を与えるか	どこを整えるか
髪・地肌をケアする	根元の界面環境を整える
成分・ケアによるアプローチ	条件・環境によるアプローチ
結果として髪を整える	髪が整いやすい条件をつくる

したがって、BIEX の特徴を単純に

「地肌に優しい」「髪に優しい」と表現すると、

本質が小さくなってしまいます。

BIEX の本質は、

- 髪を変えることなく、
- 髪が本来の状態を保ちやすい条件を設計すること。

です。

5. だから「スタイリング」の意味まで変わる

ここが非常に重要です。

一般的な「スタイリング」は、髪そのものに働きかけて、

- ・ 固定する
- ・ 形をつくる
- ・ ボリュームを出す
- ・ 表面を整える

という発想になりやすい。

しかし BLEX では、

スタイリングの起点を

- 毛先や髪の表面から
- 根元へ移す

です。

つまり、

- 髪をスタイリングする
のではなく、
- 髪が本来の状態を保ちやすい根元の条件を整える

です。

だから「Styling Shampoo」という言葉自体の意味が変わります。

シャンプーが

- 単なる「洗浄工程」ではなく、
- その後の髪の状態を決める起点を整える工程として

位置づけられるわけです。

6. そして「なぜ九州アスリート化粧品から BIEEX が生まれなかったのか」が見えてくる

ここが今回の議論の最大のポイントです。

単純に、

「九州アスリート化粧品には技術がなかったから」

という話ではありません。

そうではなく、

最初に設定している問いが違う。

ということです。

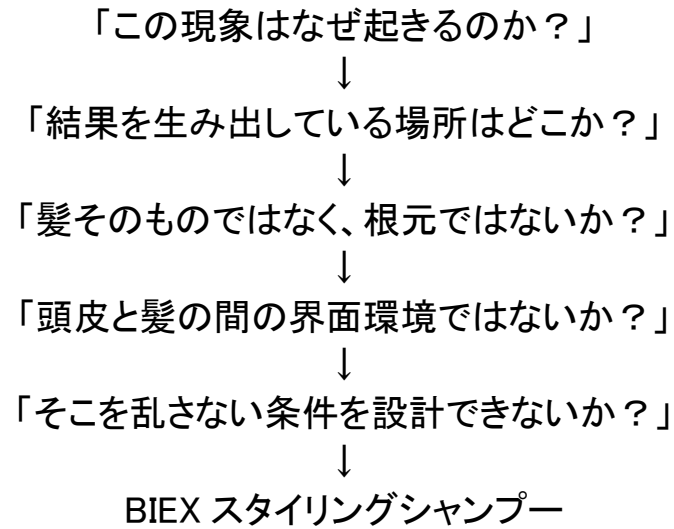
成分を起点にすると

「どんな成分が必要か？」
↓
「もっと良い成分はないか？」
↓
「もっと良い配合はないか？」
↓
より良いケア商品へ

という方向に進みます。

その延長線上に、インデアン伝承シャンプーがあります。

一方、
作用点を起点にすると



となる。

したがって、

インデアン伝承シャンプーと BIEX の違いは、

- 成分の違いだけではない。
- そもそも商品を生み出す思考の起点が違う。

という結論になります。

7. ここから「BIEX プラットフォーム原理」へ昇華する

さらに重要なのは、ここで話がシャンプーだけでは終わらないことです。

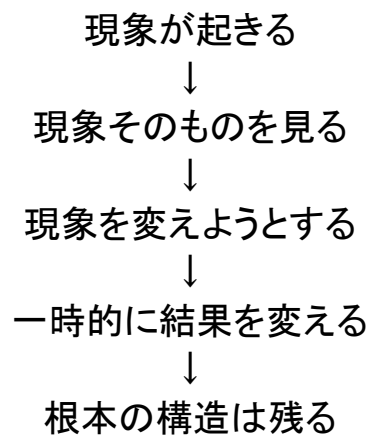
今回発見した原理は、

- 現象そのものを変えようとするのではなく、
- その現象を生み出している作用点を発見し、そこを整える

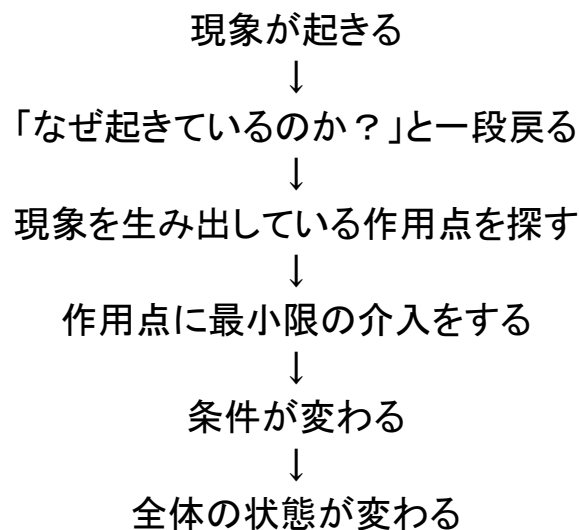
というものです。

構造化すると、

従来型



BIEX 型



これが作用点設計です。

8. 「原因」という言葉より「作用点」が重要

ここまでの議論で、「原因を変える」という表現も出てきました。

ただ、BIEX の概念としては、

- 原因を変える
よりも、
- 結果を生み出している作用点を見つけ、そこを変える

のほうが本質を表しています。

なぜなら、

複雑な現象には

一つの単純な「原因」がある

とは限らないからです。

そこで、

現象 → 構造 → 作用点 → 条件 → 結果

という見方をする。

この「作用点を発見する」というところが、BIEX の独自の思考法として非常に重要になります。

9. シャンプーは、その原理を最も分かりやすく示す具体例

つまり、シャンプーそのものが最終目的ではありません。

シャンプーを例にすると、

- 髪の状態という「結果」を直接変えるのではなく、
- 髪の状態を左右する「根元の界面」という作用点に着目する

ということが非常に分かりやすく説明できます。

そして同じ考え方を別の商品へ展開できる。

- ・ シャンプー → 頭皮と髪の根元の界面
- ・ 化粧水 → 皮膚表面と外部環境の界面
- ・ 寝具 → 身体と寝具が接する界面
- ・ その他の商品 → その現象を生み出している固有の作用点

となる。

つまり、

商品を先に考えるのではなく、作用点を先に発見する。

これがプラットフォームとしての BIE X です。

10. 最終的に BIE X とは何なのか

ここまでを一文に凝縮すると、

BIE X とは、

- 現象そのものを変えるのではなく、
- その現象を生み出している構造の起点＝作用点を発見し、
- そこに最小限の介入を行うことで、
- 全体が本来の状態を発揮しやすい条件を設計する

という考え方である。

さらにブランドメッセージとして短くするなら、

「結果を変えるのではなく、結果が生まれる条件を変える。」

あるいは、

「現象を追いかけない。現象を生み出す作用点を探す。」

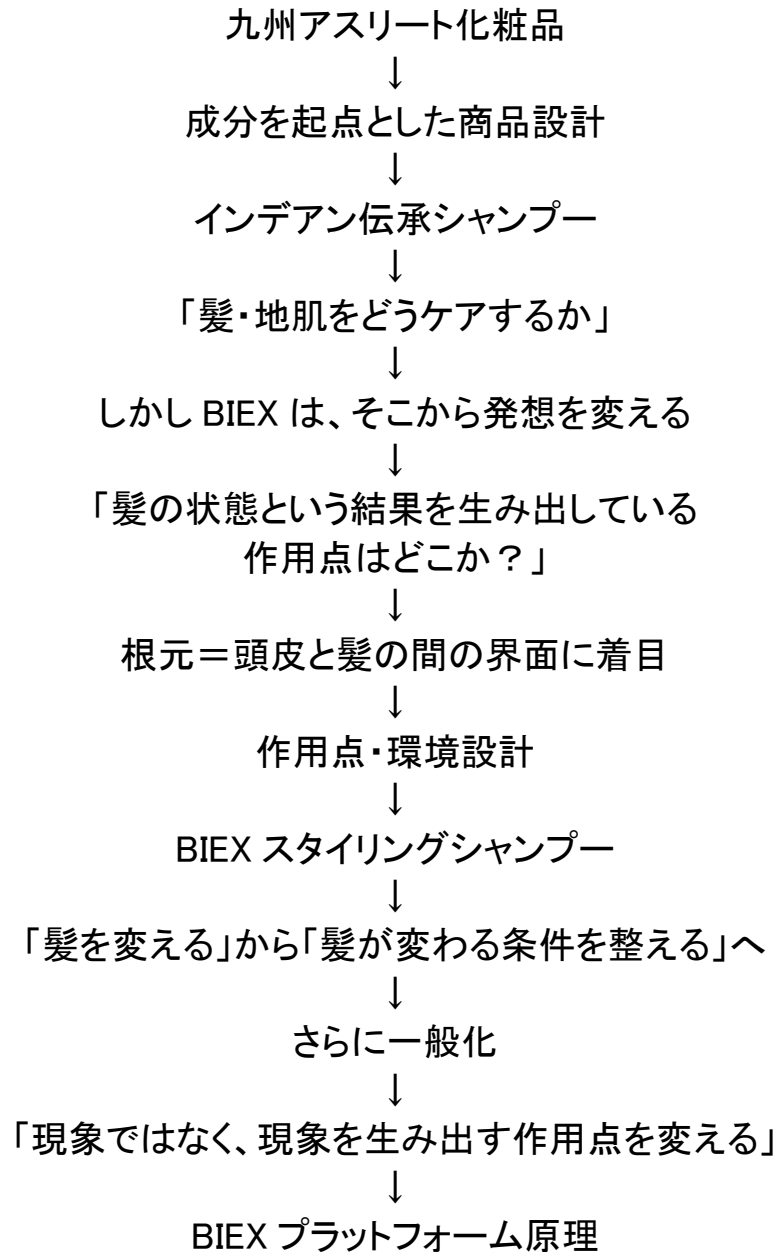
そして、シャンプーに落とし込むなら、

「髪を変えるのではなく、髪が美しくあり続ける条件をつくる。」

となります。

この議論全体の一本の流れ

最終的には、こうつながっています。



つまり、本当に発見されたのは、

- 「新しいシャンプーの考え方」ではなく、
- 「商品を生み出す前の思考法」そのもの

だと思います。